

(別紙) 令和3年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
委員	<p>1 開会</p> <p>2 委員等出席者の紹介</p> <p>3 座長及び副座長の選出 座長に池田 潔氏を互選により選出、副座長に藤原 賢二氏を選任 座長 挨拶</p> <p>4 議事</p> <p>(1)報告事項 ア 定住自立圏構想について イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会について 事務局から説明</p> <p>(2)協議事項 第2次北播磨広域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について</p> <p>【質疑応答等】 (NO.1からNO.6までの事業について)</p> <p>新型コロナウイルスの関係で、医療分野における直接の対応や福祉分野における生活支援でご多忙を極められた中ではありますが、担当者会議の開催についてはもう少し工夫していただけなかったのかと思います。その点については今年度以降検討していただきたいと思います。また、指標にこだわらずに、この事業の目的推進のためにどう工夫できるかということを含めて、連携の在り方を検討していただくことをお願いします。</p> <p>No.5 の児童虐待防止事業について、新型コロナウイルスの影響で在宅の機会が多くなったことにより虐待が増加する事例があるという報道があったと記憶しているのですが、この圏域内の状況はいかがでしょうか。児童虐待プログラムの年間受講人数については実績ゼロということですが、実際の虐待事例について説明をお願いします。</p>
担当	<p>加東市では、コロナ禍となる前と同様に、必要な家庭への訪問を最低限継続するとともに電話相談や来所相談を続けております。圏域内における虐待・相談件数の具体的な数字を申し上げることは難しいのですが、加東市ではそこまで大きな増加はみられない状況です。</p>
委員	<p>先ほど別の委員から質問のあった虐待の件数について北播磨の状況も申し上げますと、圏域で見れば、令和2年度から令和3年度にかけて増えています。ただ、虐待の件数というのは近年増え続けているとともに、学校が休みの時期に増えているというわけでもないため、新型コロナウイルスの影響かどうかの判断は難しいです。</p> <p>No.5 の児童虐待防止事業について質問ですが、新型コロナウイルス感染拡大の中で、対面しての事業の実施が難しかったと思います。そのような中、マイツリーペアレンツプログラムのように広域的に取り組んで行う事業はあまりないため、是非継続して頂きたいのですが、今年度も同じ状況が続いている中で、複数回のプログラムをこなすにあたり、今考えている工夫などありますでしょうか。</p>

担当	<p>感染対策として、参加者の検温や手洗い、マスク着用、ファシリテーターのフェイスシールド等の着用により、感染予防に努めようと思っています。グループで輪になって話し、そこで一緒に学んでいくようなプログラムなので、参加者との間にパーティションを立てることも検討しています。</p>
委員	<p>新型コロナウイルスにより、参加者と対面するセミナーやプログラムが実施できなかったというのは分かりますが、事務担当者レベルの会議は、ZOOMなどを用いて開催できないのでしょうか。</p>
事務局	<p>各市町において整備状況が異なってくると思いますが、兵庫県の会議などでもZOOMなどを用いてリモート会議ができておりますので、担当者会議がコロナの影響で開催できないというのはあまり理由にならないと認識しています。そういった手段をぜひ用いていきたいと考えております。</p>
委員	<p>(NO.7からNO.11までの事業について)</p> <p>No.9の兵庫教育大学との連携講座事業について、昨年度は新型コロナウイルスの影響で講座を実施できませんでした。今年度は既に西脇市では講座も埋まり、加東市では障害を持つ人への理解や共感に関するもの、加西市ではロボット教室、多可町では日本語指導ボランティア研修などの講座を予定していると聞いています。大学機関においても、先生方の順応性が非常に高く、ZoomやTeams、WebEXなどを活用し、オンライン授業を展開されていると聞きます。グループディスカッションも可能であり、対面とあまり変わらずいろんな講座も展開できるとのことであるため、色々と活用いただきたいと思います。</p>
委員	<p>No.7の図書館相互利用推進事業については、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中で利用者が減っており、これはもう仕方がない状況だと思います。</p> <p>No.8の文化・スポーツ交流活動及び施設相互利用推進事業についても、コロナ禍により開催予定数が減ることは仕方がないことだと思いますが、開催内容を検討いただき、今までやったことないようなことも組み入れるなど、できなかった分を何かでカバーしようという試みも必要ではないかと思います。</p> <p>事業概要に書いている施設の相互利用については何の説明もなかったのですが、進捗状況について教えてください。</p>
担当	<p>スポーツ教室等々については、毎年一つでも新しいものを実施したいと、昨年度はソフトボール、今年度はサッカー、それ以前の年度はバスケットボールと、毎年実施する内容を変えていますのでご理解いただきたいと思います。相互利用につきましては、第1次共生ビジョンの時期から継続して実施しています。</p>
委員	<p>No.10の北播磨地場産業開発機構支援事業の講演会等参加者数の指標について、共生ビジョン冊子中の指標の設定理由欄に「播州織の生産体制の確保につなげるため。」と記載されていますが、講習会の参加だけ増えればいいのか、最終的には生産数の確保につながっているかが重要だと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>また、No.11の創業支援連携事業について、セミナーの回数や参加者数ではなく、例えば相談件数や創業後のフォローの事例報告などの方が非常に重要になってきていると思います。この点も今後の取組で考慮に入れていただきたいと思います。</p>
担当	<p>北播磨地場産業開発機構支援事業の指標については、共生ビジョンの改訂時期に、各市町の担当や機構の職員、事務局などと話し合い決定しました。長く播州</p>

	<p>織を続けてもらうためにも、様々な知識の習得や事業方法・技術の継承が必要であり、現在もセミナーをたくさん開催し、人材育成に取り組まれていることから設定した指標であります。貴重なご意見をいただいたので検討していきたいと思ひます。</p> <p>また、No.11 の創業支援連携事業について、創業後のフォローは商工会等に補助金を出すことで市町毎に取組をしており、件数等は実績報告により各市町で把握しています。連携して取り組める内容としてセミナーを開催し、創業者の交流を図ったり、創業者のための知識を学んでいただけるための場をつくっていききたいと思ひていますので、今年度も引き続きこの指標で取り組みたいと思ひています。</p>
委員	<p>各事業の KPI の数字を上げることが目標化しているようにも感じられますので、事業により必要性は異なると思ひますが、取組の質の部分を担当するため、資料 3 の様式中に備考欄として書き込みできる部分をつくることを検討いただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>No.10 の北播磨地場産業開発機構支援事業について、播州織に特化した支援だと理解しているのですが、それ以外の 3 市 1 町で共通した地場産業の支援事業をこれから考えていくのかについてお伺ひします。</p> <p>No.11 の創業支援連携事業は、講演をたくさんされているとのこと、継続して実施いただきたいと思ひます。指標の年間創業件数について、実績が 52 件と目標達成している状況ですが、創業された業種の内訳をお伺ひしたいです。</p>
担当	<p>その他の地場産業の支援に係る取組については、機構で実施されているかと思ひますが、こちらでお答えすることが難しいです。</p> <p>創業件数 52 件の内訳についてですが、主なものは、飲食業が 14 件、サービス業が 11 件、建設業と小売卸業が各 6 件ずつ、製造業が 3 件で、その他近年は理容業や民泊、農業、あと IT 関連の創業者が増えてきています。</p>
委員	<p>(NO. 12からNO. 17までの事業について)</p> <p>生活分野に限らず、指標の達成率と進捗状況の評価がアンバランスである気がします。指標の達成率が 100%であるが進捗状況は△であるといったような事業がありますが、設定した指標を基準に評価された方がよいと思ひます。</p>
委員	<p>No.13 の広域備蓄体制整備事業については、今の時代、いつ大型の地震や異常気象による川の氾濫などが起きても不思議ではなく、緊急の課題だと思ひます。備蓄物資については、多くても少なくてもだめで、それぞれが準備するものを分けて、必要に応じて使いまわせばいいと思ひますが、各市が実情を把握しているのでしょうか。また、圏域全体の備蓄状況を、ネットワーク等によりどの市町も確認できるような体制は整っているのでしょうか。</p>
担当	<p>備蓄物資の状況については、必要最低限の物品を各市町で準備しているところでございます。新型コロナウイルスが感染拡大する中、マスクについての情報共有などによる市町間の連携ができたほか、それ以外の物品についても、正確な数値は不明ですが、調査によりビスケットやアルファ化米などの物資の備蓄状況についての情報は把握しています。さらに情報共有を進め、正確な数量についても把握していきたいと考えています。</p>
委員	<p>No.14 の北はりま消防組合運営事業について、地元消防団の団員確保が非常に難しいということが問題になっています。地域の皆様も生活や仕事において広範囲</p>

担当	<p>に活動されているため、消防団の活動への参加ができない状況であるのですが、北はりま消防組合では、この点をどのように考えているかお伺いします。</p> <p>消防団の運営については、各市町の防災担当課が所管しており、そちらで把握している内容です。消防署では、整備計画に基づいて10拠点を整備して人員を配置することで、3市1町平等に、どこにいても充実した消防体制が整うように対応しています。ただ、人員の減少という点では、北はりま消防組合にも合計280名の職員がいますが、出動態勢としてはまだ足りない現状であり、悪戦苦闘をしています。</p>
委員	<p>消防署の場合は給与が払われますが、消防団の分団ではボランティアのような状態で報酬も少ない状況です。自治会でも我々の生命と財産を守る最前線で活動されている活動に報いたいなど報酬を出せないかと検討したところですが、規約の関係で難しいという結果となりました。実際、消防団が維持できなくなり解散となった町もあると聞き、その点をお伺いできればと思います。</p>
事務局	<p>ご質問いただいた消防団の課題については、各市町でも認識をしておりますが、この定住自立圏という枠組みの中では連携をした事業を行っておらず、市町それぞれで消防団の適正な運営・管理について協議しているのが現状です。</p> <p>加西市を例に紹介すると、団員の確保に関することや報酬の額の妥当性、消防服や装備品の補助体系の見直しなどについて、地域の声や団員の方々やそのご家族の方々の声を反映しながら、全面見直しを行っています。</p>
委員	<p>防災は、安心・安全な暮らしの基盤をなすものであり、広域防災についても強く必要性を感じているため、このような体制で進めたいと思います。</p> <p>環境分野についても、現在の低炭素、脱炭素の時代の中、喫緊の課題であることから、圏域住民に向けての啓発活動を行っていただきたいと思います。</p> <p>No.17の「健幸」推進事業における健康ポイントについて、多可町や加西市の方々に多く活用されていると聞いておりますので、発展して進んでほしいと思っています。</p>
委員	<p>(No. 18 から No. 24 までの事業について)</p> <p>兵庫県下でも依然として新型コロナウイルスが感染拡大している中、令和2年度は外出自粛や学校の休校要請等により乗合バスの通勤、通学、通院輸送が大きく減少しています。その結果、No.18の公共交通広域連携調査・研究事業における指標の達成率が85.2%となってはいますが、乗合バスは緊急事態宣言下においても圏域住民の生活及び地域経済の安定確保に不可欠なものであり、各自治体からもバスの運行の継続のための支援をいただいています。依然先行き不透明な状況ではありますが、令和3年度においても、圏域全体として必要な生活機能確保のための事業促進や支援について、引き続きお願い申し上げます。</p>
委員	<p>No.23の人事交流事業について、広域交流は各市町の長の意思を踏まえたトップダウンの形をとることも取組を進める上で必要だと思いますが、各市町長は取組について理解しており、この取組を進めていく機運を醸成されていると解釈していいでしょうか。</p>
担当	<p>お話いただきましたとおりです。</p> <p>(その他全体を通しての質疑応答)</p>

委員	会議資料について、公表する予定はありますでしょうか。
事務局	ホームページ等で公表させていただきます。
委員	進捗状況と KPI との関係性が分かりにくいいため、明確にしていきたいと思います。進捗状況と KPI とは違うものなのか、または両方加味して進捗状況を評価しているのか、説明書きとかそういうのがあると圏域住民の皆様に理解していただけるかと思います。
委員	<p>資料 3 の様式に、備考欄や特記事項欄を設けていただき、KPI と進捗状況について補記いただくことも必要かと思えます。改めて、事務局で検討をお願いします。</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールについて <p>6 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副座長挨拶